

## 事後評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|  |                                |     |
|--|--------------------------------|-----|
| 研究種別   | 重点化研究                          |     |
| 研究課題名  | 再生可能エネルギーを活用した夏秋イチゴの収穫期拡大技術の確立 |     |
| 研究期間   | 平成29年度 ~ 令和1年度                 |     |
|  | 評価項目                           | 平均点 |
| 1  | 研究目標の達成度                       | 3.8 |
| [コメント]<br>導入可能な再生エネルギーを活用して、平坦地および高冷地における夏秋イチゴの栽培適期拡大を可能にしたことは、研究計画通りに目標を達成したと理解できる。研究成果は栽培者の収入安定や拡大に寄与できると考えられるので、現地普及に取り組んで頂きたい。 |                                |     |

## 事後評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|   |                            |     |
|---|----------------------------|-----|
| 研究種別  | 重点化研究                      |     |
| 研究課題名   | 難防除獣害に対する新技術の開発及び既存技術の効果検証 |     |
| 研究期間  | 平成29年度 ~ 令和1年度             |     |
|   | 評価項目                       | 平均点 |
| 1   | 研究目標の達成度                   | 4.0 |
| [コメント]<br>難防除獣害に対し97%以上の侵入防止を可能とする防除柵を開発し、商品化したことで、研究目標を達成したと評価できる。既存柵を効果的に利用するための方法の開発でもあり、低コストでの使用が可能となると思われる。一方、シカ忌避対策として、光や臭い刺激による防止対策は十分ではないものの、音刺激については補助的ではあるが利用の可能性を示したことは評価に値する。 |                            |     |

## 事後評価報告書

第 2 回評価委員会

令和 2 年 1 月 2 2 日 (水)

|   |                            |     |
|---|----------------------------|-----|
| 研究種別  | 重点化研究                      |     |
| 研究課題名   | 夏秋トマトの高品質化・高機能化・省力化栽培技術の開発 |     |
| 研究期間  | 平成 2 9 年度 ~ 令和 1 年度        |     |
|   | 評価項目                       | 平均点 |
| 1   | 研究目標の達成度                   | 3.6 |
| [コメント]<br>本課題において、夏秋トマトの低劣化性、高品質性、高収量性を維持する栽培方法の検討を詳細に行い、大玉トマト品種麗月が期待できる品種であることを明らかにしたことは評価に値すると考える。県ブランドとして認定できるトマト品種を選別することができなかったことは残念ではあるが、夏秋期栽培におけるトマト栽培の基礎的データを得たことは、今後の成果に繋がると評価できる。 |                            |     |

## 事後評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|   |                               |     |
|---|-------------------------------|-----|
| 研究種別  | 重点化研究                         |     |
| 研究課題名   | 富士山やさい生産に適した低コスト施設による新規栽培法の開発 |     |
| 研究期間  | 平成29年度 ~ 令和1年度                |     |
|   | 評価項目                          | 平均点 |
| 1   | 研究目標の達成度                      | 4.0 |
| [コメント]<br>耐候性があり低コストで設置可能な大型トンネルハウスを開発したこと、さらにそれを利用して夏秋トマト、ピーマン、パプリカの栽培への利用を実証したことで、成果目標を達成したと考えられる。低コストであるため高齢者や新規営農者の利用が可能であると考えられるので、今後は、新規栽培法が適用できる作物種の増加について検討してほしい。 |                               |     |

## 事後評価報告書

第 2 回評価委員会

令和 2 年 1 月 2 2 日 (水)

|  |                            |     |
|--|----------------------------|-----|
| 研究種別   | 重点化研究                      |     |
| 研究課題名  | 特産野菜に含まれる機能性成分および栄養成分の実態把握 |     |
| 研究期間   | 平成 2 9 年度 ~ 令和 1 年度        |     |
|  | 評価項目                       | 平均点 |
| 1  | 研究目標の達成度                   | 3.8 |
| [コメント]<br>研究目標である、特産野菜に含まれる機能性成分や栄養成分の実態を把握できたことは評価に値する。またそれにより、栄養機能食品としてブランド化が可能な野菜があることを明らかにしたことも評価できる。今後は、この研究をより詳細に行うことで、県特産品としての利用が見込める野菜を開発して頂きたい。 |                            |     |

## 事後評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|  |                                |     |
|--|--------------------------------|-----|
| 研究種別   | 一般枠課題                          |     |
| 研究課題名  | 携帯情報端末を利用した野菜の病害虫診断サポートシステムの開発 |     |
| 研究期間   | 平成29年度 ~ 令和1年度                 |     |
|  | 評価項目                           | 平均点 |
| 1  | 研究目標の達成度                       | 4.4 |
| [コメント]<br>病害虫の特徴を捉えた映像を保管したデータベースを作成し、携帯情報端末を利用することで病害虫診断サポートシステムを構築しようとする課題であり、目標を達成できたと判断できる。研究対象とする、トマト、キュウリ、ナス、イチゴ、スイートコーンなどの主要野菜で病害虫診断サポートシステムを実証したことは、評価に値する。このサポートシステムの利用は、低コストの防除を可能にし、農家への大いなる負担軽減をもたらすと考えられるので、速やかな普及を期待したい。 |                                |     |

## 事後評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|  |                    |     |
|--|--------------------|-----|
| 研究種別   | 一般枠課題              |     |
| 研究課題名  | 山梨ブランド花きの品質向上技術の確立 |     |
| 研究期間   | 平成29年度 ~ 令和1年度     |     |
|  | 評価項目               | 平均点 |
| 1  | 研究目標の達成度           | 4.0 |
| [コメント]<br>県ブランド花きの品質向上技術の確立を目的として、土壌の適用性を判断できる「9マステスト」を開発したことで研究目標は達成されたと評価できる。本方法は新規品目の早期鉢物化や既存品目に対する利用が可能であり、高品質安定生産に寄与できると考える。一方、吸水ポリマーの利用による土壌水分管理やケイ酸カルシウム資材の利用法を開発したことも評価できる。今後ともに、作物に応じた栽培手法を開発してもらいたい。 |                    |     |

## 中間評価報告書

第2回評価委員会

令和2年1月22日(水)

|  |                 |     |
|--|-----------------|-----|
| 研究種別   | 重点化研究           |     |
| 研究課題名  | ピラミッドアジサイの新品種育成 |     |
| 研究期間   | 平成30年度 ~ 令和3年度  |     |
|  | 評価項目            | 平均点 |
| 1  | 研究計画の進捗度        | 4.0 |
| [コメント]<br>オリジナル性の高い栽培法と新品種育成を目指している。目を見張る成果はまだ得られていないものの、研究は順調に進捗しており、現時点では、計画の変更等の必要性は認められない。新品種の可能性のある系統26-5、26-8、27-2については、新品種として世に出せるような特性を調べてほしい。一方、栽培技術と草姿改善技術については、既存品種を利用してではあるがコンパクト化が可能となっている。残された期間で目標が達成できるように研究を進めてほしい。 |                 |     |